多様な住民が参画する地区づくり
～日頃市地区のチャレンジ～

▷問い合わせ先＝市民協働課（☎内線278）

市は、将来にわたり安心して暮らせるまちをつくるため、地区と共に協働のまちづくりに取り組んでいます。本号では、日頃市地区の皆さんによる、新たな地区づくりに向けたチャレンジについて紹介します。

持続可能な地区づくりに向けて

日頃市地区では、人口減少や少子高齢化の影響により、地区の担い手不足を始め、小売店や交通手段の減少、中学校の閉校など、取り巻く環境が大きく変化しています。

こうした中、将来にわたり安心して暮らし続けられるよう、世代や性別を超えた多くの住民が意思決定や実践活動に参画する「新たな地区づくり」に、地区公民館が中心となってチャレンジしています。

話し合いを基本とした多様な住民の参画促進

取り組みのスタートは、住民ワークショップ組織「日頃市の未来を語る会」の立ち上げです。令和元年度に、50歳未満の住民など約40人で、取り組むべき活動などを自由に話し合う場をつくりました。

住民ワークショップの成果は、昨年10月に14の地区振興策案を記した提言書としてまとめられています。

次のステップとして、昨年12月に「語る会」有志のほか、地域公民館長、地区内の団体関係者など、より幅広い世代を加え、【集まれ（賑わいと交流の創出）】【環境】【暮らし】【稼ぐ（地区内経済の循環）】の4つの専門部会を設置しました。

専門部会では、旧中学校施設の活用も視野に入れながら、地区振興策の内容や実施時期を具体化した地区づくり計画の作成に向け、話し合いを進めています。

また、活動を実践する体制、いわゆる地区運営組織の構築についても、助け合い協議会との一体化などを見据えた検討が行われています。

これらの動きは、昨年10月に市が策定した「住民自治の推進と協働による新しい地区コミュニティの創造指針」（3ページ下段参照）に照らすと、第1段階と第2段階に並行して取り組んでいるものです。

より多くの住民の意見を地区づくりに生かす

日頃市地区公民館では、こうした取り組みを住民の間で共有するため、専門広報紙「日頃市の未来を語る会通信」を毎月作成し、地区の全世帯に配布しています。

また、高校生以上の地区の住民を対象としたアンケート調査を2回実施したところ、自由記載欄には、話し合いに参加できなかった住民などから多くのコメントが寄せられ、地区全体がこの取り組みに高い関心を持っていることが分かりました。

日頃市の未来を語る会通信

考え・話し合う段階から活動を実践する段階へ

専門部会で話し合われている地区づくり計画と新たな活動体制は、今後、住民合意のプロセスを経て決定されます。

日頃市地区では、地区住民が自ら考え、決定した地区づくり計画を自分たちで実践する段階（ページ下部に示す指針の第3段階）へと移りつつあります。

市民活動支援センターと市が地区をサポート

日頃市地区での取り組みを進めるにあたり、大船渡市市民活動支援センターは、住民ワークショップや住民アンケート調査、話し合いの場といった多くの場面でサポート活動を行っています。

また、市でも、有識者の派遣など、地区の取り組みをバックアップしています。

今後、日頃市地区を支援する中で得られたノウハウを他地区での取り組みに生かしつつ、「協働のまちづくり」を市内全域に広げていきます。

日頃市の未来のために
専門部会員　佐藤毅直さん

私は、専門部会の1つである「環境部会」に参加し、日頃市のこの先を考えながら今後の活動を話し合っています。

話し合う際は「どのようにすれば実現できるか」を考え、メンバー全員で前向きで柔軟なアイデアを出し合いながら、より具体的に企画を進めています。継続的に活動するためには、人員・資金・時間をどこにどれだけ投入するかなどの見極めも重要と感じています。

環境部会では、五葉山の清掃活動などを企画しており、環境を保護しながら自然との親しみを深め、また、活動を通じて、親子や地区住民の交流促進を図るなど、参加者がより楽しめるよう工夫をしています。

さらに、話し合いの中で、遊休農地を花畑にし、観光資源や憩いの場として有効活用できないかなど、新しい発想も生まれてきました。

今後は、専門部会内で企画の趣旨を共有し、情報を集めるとともに、参加者が地区づくりを実感し、自分たちの活動にやりがいが感じられるよう、多くの人の知恵や知識を借りながら、成功させるための手段を探りたいと考えています。

住民ワークショップに参加する佐藤さん（写真中央）

「住民自治の推進と協働による新しい地区コミュニティの創造指針」の概要

地区や地域では、人口減少や少子高齢化の影響を受けた互助機能の低下により、地区（地域）課題への対応が困難になる恐れがあります。

このことから市では、これからも誰もが住み慣れた地区で安心して生活し続けられるよう、地区と行政の協働による新たな地区づくりの基本的事項を体系的にまとめた、「住民自治の推進と協働による新しい地区コミュニティの創造指針」を昨年10月に策定しました。

この指針では、「自分たちの地区は自分たちで創（つく）る」の理念のもと、住民同士で、あるいは地区と市が協働しながら、持続可能な地区づくりを進めることとしています。

また、地区づくりを5つのステップに分け、段階ごとの取り組みを示すとともに、市の支援などについて明らかにしています。

■持続可能な地区づくりのステップ

導入段階	地区づくりに向けた気運の醸成	地区の未来を考え、話し合う
第1段階	地区づくり計画の策定	
第2段階	地区運営組織の設立	
第3段階	自立した活動の展開	計画に沿って活動を実践する
第4段階	持続可能な地区づくり	

大船渡市ホームページ

※指針の全文については、市ホームページで公表しています。

大船渡市　新しい地区コミュニティの創造指針 検索

▷問い合わせ＝市役所☎0192㉗3111